



2021  
OC & 学校案内ガイド  
ロングインタビュー  
1-2  
京都芸術大学

## 卒展のアートフェア化に 共通工房ウルトラファクトリー。 京都芸術大学が大切にしている 社会との繋がりとは

— 京都芸術大学はどういった魅力を持った大学ですか？

芸術を学んだ学生の力で社会を、日本を、そして世界をよりよく変えることを目指している大学です。「伝統」と「革新」が共存する京都には、新進気鋭のアーティストやグローバル企業が集まります。そんな恵まれた環境を活かし、これまで以上に社会とつながる大学を作り上げています。大学には、13学科23コースという多様な分野の学生が在学し、ウルトラファクトリーという共通工房や校内に「春秋座」という劇場を設けるなど、施設面も充実しています。卒業では、8万㎡を超える広大なキャンパス全体を「美術館」と

見立て、個性豊かな作品を例年750点ほど展示します。さらには卒業生をアートフェアとして展開し、アート市場活性化と若手アーティスト育成のために会場で作品販売を実施しています。

— 卒業生をアートフェアとして展開するようになった経緯を教えてください。

現代美術家として瀬戸内国際芸術祭、AOMORIトリエンナーレなどでディレクターを務めた樗鼻教授が、卒業生作品を購入できるような2012年より卒業生アートフェアとして開催しました。制作した作品を教員や友人への発表だけにとどめず、学生自身が「アートをどう届けるか」を徹底的に考え抜きます。さらにこの考えを発展させ、卒業期間に限らず大学内で作品販売を可能としたアートライブラリー『アルトテック』を立ち上げました。『アルトテック』は2019年から、若手作家を支援するインキュベーション施設となっています。

— 実際にはどのくらい売れるのでしょうか。

昨年度の卒業作品の総売上は約860万円です。ギャラリストやコレクターも来場し、学生たちは卒業の間、購入希望者に対して真摯に対応します。アートフェアという取り組みで、若き才能とアート市場の結びつけ、さらに社会にどんな価値を届けることができるのかを考えていきます。



—— 卒展からも感じましたが、京都芸術大学は芸術と社会のつながりを強く意識しているイメージがあります。大学の特徴の一つであるウルトラファクトリーもその背景で生まれたのでしょうか？

「創造しうるものはすべて実現可能」と宣言し、どの専攻の学生も使用できる、大学の共通工房を作るために、2008年6月にオープンしました。自身の領域と異なる分野の制作を可能として、表現の幅と質を高めることがウルトラファクトリーの目的です。ディレクターをヤノベケンジ教授が務め、工房にはテクニカルな面でのアドバイザーができるスタッフが常駐。現代のものづくりに必要不可欠な3Dプリンターやレーザーカッター、UVプリンターといったデジタル機材も備えており、ここで習得した最新の技術は“そのまま”社会の第一線で発揮できます。



2008年に技術力・思考力の向上を目的とし、類例のない特殊教育を実施する拠点として京都芸術大学に設立された工房。金属加工および樹脂成形を扱う工房、木材加工を扱う工房、シルクスクリーン専門工房、デジタルファブリケーションの専門工房の4つのエリアから成り立つ。ウルトラファクトリーは創造的な思考と研究の場であり、また実験的な構想を実現する工房として機能している。

—— 工房としての機能だけではなく、独自のカリキュラムも組んでいると伺いました。こういった授業を行っているのでしょうか。

中心となっているのは、ウルトラプロジェクトです。これは第一線で活躍するアーティストやデザイナーが指導教員として関わり、学生との共同作業を通して、技術のみならず制作に向かう姿勢を伝えるプロジェクト型実践演習を多数実施しています。例えば、彫刻家名和晃平とともに制作を進めるULTRASANDWICHPROJECT、劇団四季『キャッツ』との共同製作、きやりーぱみゅぱみゅのアーティストディレクターとしても知られる増田セバスチャンのクラブフル・ラボやなどを行っています。

ウルトラプロジェクトでは現場の仕事に携わる中で、第一線で活躍する世界レベルのクリエイターの技術や思考を、生身で感じることができます。また、クリエイターがどのように交渉をしながらプロジェクトを進めていくのか、といったプロセスも見ることができ、「どこまで突き詰めて作品を作っているか」という意識も共有することができます。実際に世の中へ発表する作品をここで作るため、学生は実社会とアートとの関わりをそのまま体験することができます。

—— このような取り組みが将来どのように繋がっていくと考えていますか？

学生には、作品を作る思考や技術だけに特化してほしいわけではなく、「どんな職業に就くとしても、社会に適応できる能力を備えてもらいたい」という思いがあります。その結果として、2019年度の進路決定率（※一般的な大学が発表する進路希望者への調査ではなく、計算式の分母は卒業生総数）は92.4%と過去最高の結果になりました。この値は全国の大学平均（90.6%）を上回り、芸術系大学の中ではトップクラスの数字を保っています。物事を進めていくうえで、責任を負うということが現実かどうか、妥協しない強い精神力をもって、社会に出ていくための準備を大学で学んでほしいです。